

看護学生が中学生に対して命の大切さを伝える授業～人の誕生を題材にした参加型授業の実践と効果の検証～

— 上智大学 —

目的

ここ数年で命や身体に被害が生じる「重大事態ケース」が中学校で大幅に増加しており、いじめ問題への適切な対応が喫緊の課題である。いじめ防止等のための基本的な方針には、児童生徒らの自己有用感を高めるよう努めること、そのためには、家庭や地域の人々にも協力を求めていくことが有効であると示されている（文部科学省 2017）。自己有用感を高める取り組みとして「生命尊重」に関する内容を取り入れた授業が効果的であることもわかっている（濱保・岡田 2019）。本研究は、外部講師としての助産師を活用した中学校における「命の授業」の効果検証を目的とした。

研究内容・結果

A 地区中学校 2 年生 49 名を対象に、外部講師としての助産師が「人の誕生を題材とした命の授業」を実施し、生徒の考えや感じたことの変化をみた（授業前、授業 1 週間後、授業 1 か月後）。また、授業の感想 14 項目を提示し、あてはまるものへの回答を求めた（授業直後）。

上智大学「人を対象とする研究」に関する倫理委員会の承認申請を得て行った（2022-35）。

生徒の「普段の自分の考え」が授業によって変化が見られたかを検討するため、事前（Pre）、1 週間後（Week）、1 か月後（Month）において、項目ごとに分散分析を行った。その結果、「3. 友達の命について考える。」のみ有意な主効果が見られた。多重比較を行った結果、時期の違いは見られなかった。これらの結果から、授業によって生徒の意識に変化があったとはいえないことがわかった。

生徒の感想に対する授業直後の記述統計における、度数が 1～3 名の少数回答を除いた結果では「6. びっくり」が 57.1%と最も多く、「12. 感動した」51.7%、「4. 不安だ」20%、「3. ジーンとくる」17.1%、「7. もやもや」11.4%、「14. 難しい」14.3%であった。

授業内容

「いのち」の始まりとつながりの話



青い丸の中央に白い点が見えるかな。それは何だろう。

「受精卵」になれるのはどのくらいの確立だろう。



なんとなく温かい…
かわいいな…



首がぐらぐらしている…
思ったよりも重い…

胎児人形の抱っこ体験

考察・まとめ

生徒の「普段の自分の考え」に対する質問紙調査では授業による変化は見られなかった。しかしながら、授業直後の生徒の感想で多かった「びっくり」「感動した」の自由記述では「自分達の最初の時の重さに驚いた、こんなに重いと思っていなかった、命の価値を知った、命は重い、命の大切さについて感動した、今を大切にしたい、赤ちゃんがかわいい、日に日にお腹が大きくなると生活が大変そう、親に大切に育てられたことを改めて知った」など、胎児の重さにびっくりしたり、命の貴重さや重さを感じたり、自分の命の大切さや親への感謝などを感じていることがわかり、それぞれが命について考える機会になっていたと考えられた。

今後、この自由記述を分析し、授業の効果を検証していく予定である。